

原子力機構

作業員肺から2.2万ベク

プルトニウムなどで内部被ばく

日本原子力研究開発機構
の大洗研究開発センター

(茨城県)で核燃料物質の
点検作業中に5人の作業員

が被ばくした問題で、原子
力機構は7日、3人から内

初の1年間で1・2割に達
するとしています。

5人全員に肺を中心に体
内の放射性物質を検出する
肺モニターによる測定を実
施した結果、50代の作業員
からはプルトニウム239

のほか、アメリシウム24
1も220ベク検出されまし
た。

他の作業員3人からアメ
リシウム241が130
ベク、12ベク、8・5ベク検出さ
れました。

今後50年間で最大12割、最

原子力機構は、作業員に

プルトニウムなどの体外へ
の排出を促進する目的で薬
剤を投与。放射線医学総合
研究所(千葉県)に搬送し、
詳細な検査を行うといいま
す。

原子力機構によれば、過
去には再処理施設(茨城県
東海村)で50年間で数十
割の内部被ばく事故があり
ましたが、今回はそれを上
回り同機構での最悪の内部
被ばく事故です。

↓関連⑤面